

事例 49

## 予習・復習のサイクル確立をめざし、生徒が参加する「英語 I」の授業 (予習・復習プリントおよび音読プリントを使って)

外国語 英語 I 普通科・第 1 学年  
石川県立金沢泉丘高等学校

### 1 事例の概要

高校と中学の英語授業の違いは、1回の授業で学習する英文や新出単語の量が圧倒的に増えることである。予習・復習の習慣が早期に確立できないと、日々の積み重ねのないまま授業を受けることになり、授業内容がわからなくなってしまう。そこで、今年度、入学当初の学習意欲を持続させるために予習・復習プリントの作成に学年全体で取り組むことになった。予習・復習のサイクルの確立を目指し、予習・復習において、何をどのように取り組めば基礎力を育むことができるかを生徒自身が明確にとらえ、かつ、積極的に取り組めるような工夫を試みた。また、授業の中で空所補充式の音読プリントに取り組むことで授業に積極的に参加して理解を深め、学習意欲をさらに高めることを目指した。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・言いたいことを英語で表現するための基礎力となる語彙を積極的に習得する。
- ・文の構造や意味を理解しながら、音読練習を繰り返し行うことにより、自信を持って話すことができる。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 予習プリント

教科書本文の一つひとつの文に番号がついた、予習用のプリントを授業前に配布する。

予習は①CDを聞く②単語・熟語の意味を調べる③日本語に訳す④Q&Aに答える⑤Q&Aを作る、の5つである。プリントに各々記入場所を指定することで、生徒は何をすればよいのか明確に理解できる。また、教える側にとっても予習の有無を確認しやすいという利点がある。

##### ② 音読プリント

新出単語や語句を穴埋めにしたプリントを本文学習直後に配布する。その日に学習した内容を短時間で復習することができる。ペアで交代で音読するので、わかったつもりでなく、確実にわかり、理解を深めることができる。授業にも積極的に取り組む意欲が感じられる。

##### ③ 復習プリント

習得した語彙を使った自由作文や英文和訳といった、学習した内容を発展的にとらえる問題に取り組ませる。

### 3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
・新出単語の発音練習 ・新出単語、語句の意味の確認	・新出単語の発音練習をする。 ・フラッシュ・カードで意味を確認する。 英語から日本語、また日本語から英語に素早く意味を理解できるようにする。	・発音、アクセントに留意させる。 ・生徒の理解度に注意を払いながら、フラッシュ・カードを見せる。
・CDを聞く ・音読する。	・本文をペンでなぞりながらCDを聞く。 ・教師の後に続いて意味のまとまりごとに音読する。	・音声と文字の関係を確認させる。 ・意味の区切れ目を確認させる。また、正しい発音、抑揚

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2分間で2回を目標に各自音読をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読させる。</li> <li>・ 語句の意味を瞬時にとらえて内容を理解させる。</li> <li>・ ストップウォッチを使い、2分間計る。この時間を利用して、予習をチェックを行う。全員のノートのチェック欄にハンコを押す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語によるQ&amp;A</li> <li>・ 本文の内容を正確に理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の内容に関する、教師の質問に答える。</li> <li>・ 家庭学習に基づき、必要に応じて日本語訳をしながら本文の理解を進める。</li> <li>・ ペアで内容を確認する。</li> <li>・ 必要に応じてメモを取る。</li> <li>・ 文の構造を意識しながら読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の内容に関する質問をする。</li> <li>・ 前時に予め生徒を指名し、黒板に英文と訳を書かせる。</li> <li>・ 文法、語法、語彙の知識に基づき、必要に応じて日本語訳をさせながら、本文の理解を進めさせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読プリントを使って、学習内容を確認する。</li> <li>・ 音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読プリントを使い、CDに合わせて、音声を確認しながら音読する。</li> <li>・ ペアで音読練習する。片方は音読プリントを用いて、もう片方はテキストおよびノートを見ながら、相手がつまったら教える。</li> <li>・ CDに合わせて音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語彙や文法事項を再確認させる。</li> <li>・ モニタリングをしながら、正しいリズムや発音、抑揚で読むよう注意を促す。</li> <li>・ CDを聞かせる。</li> <li>・ 正しいリズムや発音、抑揚で音読させる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まとめと次回の予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の内容への関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のまとめと、次回の内容への興味を喚起し、予習を促す。</li> </ul>

### C-1 指導案

### C-2 予習・復習プリント

### C-3 音読プリント

## 4 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 予習・復習のサイクルの確立

予習・復習プリントを配布することによって、家庭学習として何をすればよいのかが明確になり、ほぼ全員が家庭学習を行ったうえで授業に参加している。

#### ② 音読への積極的な取り組み

ただ音読するのではなく、ペアでプリントを使って音読練習を繰り返すことにより、本文の理解が深まるだけでなく、生徒同士で教え合い、学び合う雰囲気が授業に生まれる。また、日頃から復習用として音読プリントを活用している生徒も多い。

### (2) 課題

#### ① 音読にかかる時間

英語 I の間は1回の授業で扱う英文の量は適切であるが、学年が上がるにつれて、英文の量は増えていく。現在は音読に時間を割くことは可能だが、今後どのように取り扱っていったらよいか。本校生徒は音読活動に積極的であるだけに、時間を確保できるよう工夫していきたい。